



八戸ブックセンター企画事業報告書（平成29年度版）

まちづくり文化スポーツ部
まちづくり文化推進室八戸ブックセンター

目次

基本計画書（施設の位置づけ）	1
基本計画書（施設運営の基本方針）	2
方針1 本を「読む人」を増やす	
(1) 本のまち読書会	3
(2) ブック・ドリンクス	4
(3) セレクト・ブックストア（本の陳列・販売）	5
(4) 読書会ルームの活用	6
方針2 本を「書く人」を増やす	
(1) 執筆・出版ワークショップ	7
(2) カンヅメブースの活用	8
方針3 本で「まち」を盛り上げる	
(1) ギャラリー展示	9
(2) パワープッシュ作家	11
(3) 本のまち八戸ブックフェス（一箱古本市）	12
(4) 市内書店との連携 （市内書店個性化プロジェクト）	13
(5) ブックサテライト増殖プロジェクト （フリーペーパーの発行）	14
(6) 「本のまち八戸」各種事業との連携	15
参考データ① 平成29年度八戸ブックセンター決算額	16
参考データ② 来館者数の推移	17
参考データ③ 販売冊数、販売額の推移	
参考データ④ 視察受入状況	18
参考データ⑤ アンケート集計結果	19

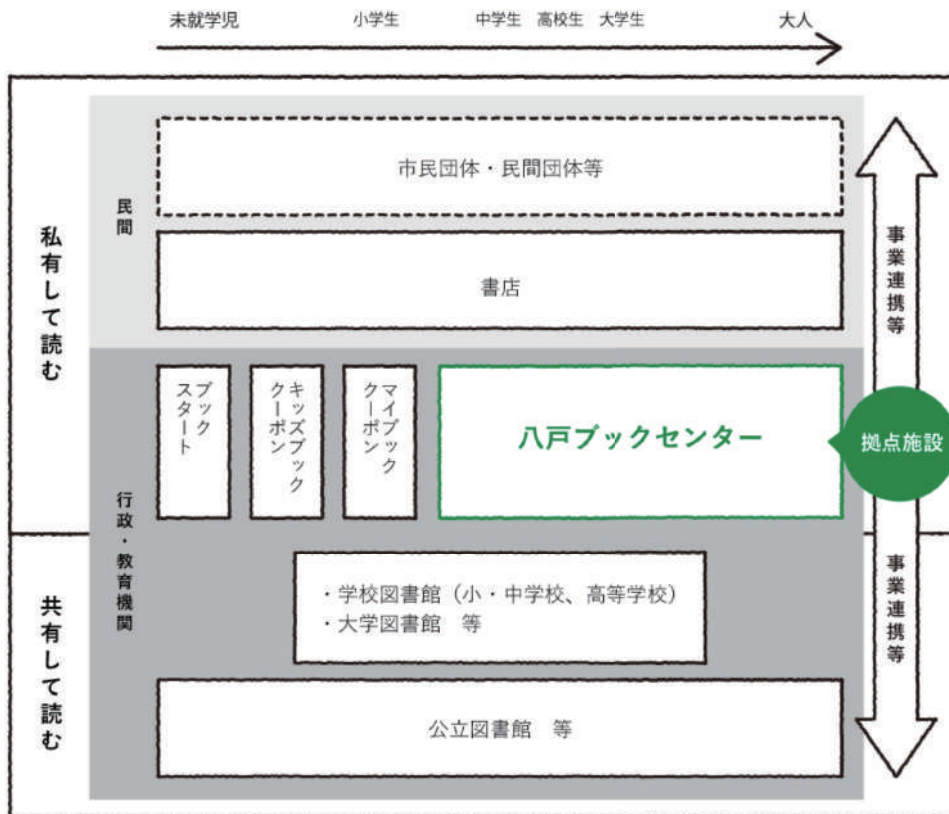
八戸ブックセンター基本計画書（一部抜粋）

○施設の位置づけ

八戸ブックセンターは、政策公約に掲げる「本のまち八戸」を目指す取り組みの、乳幼児（生後90日～1歳未満）とその保護者を対象とした「ブックスタート事業」、小学生を対象とした「マイブック推進事業」、また、3歳児とその保護者向けに新たに創設した「“読み聞かせ”キッズブック事業」に続く、大人を主な対象とした施設です。また、八戸ブックセンターは中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指すため、本と出会う新たな機会の創出、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点施設としても位置づけています。

◎「本のまち八戸」の概念図

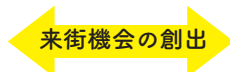
サービスの対象者



◎まちづくりにおける八戸ブックセンターの効果



八戸市 / 中心街



生活の質を高める魅力的な都市機能として、本の購入に止まらない、観光、移住、企業誘致などへの波及効果が期待される。



八戸ブックセンター



「はっち」、「マチニワ」、新美術館、図書館などの公共施設や民間書店などの事業連携により、街の回遊性を高める。



はっち・美術館など

○施設運営の基本方針

- 方針1 本を「読む人」を増やす
- 方針2 本を「書く人」を増やす
- 方針3 本で「まち」を盛り上げる

八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

方針1 本を「読む人」を増やす

「本好き」はまず、本を「読む人」です。本を読むことは、日々の生活を楽しくする、とても豊かなことですが、それが習慣になるまでは、少し時間がかかることでもあります。八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたいくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。

方針2 本を「書く人」を増やす

「本好き」が高じて、本を「書く人」になることもあります。本を「書く人」が多いまちは、豊かな想像力や思考力にあふれ、魅力的なまちとなることでしょう。当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。

方針3 本で「まち」を盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。

この基本方針に則り、子どもから大人までが本と出会い、本に親しむ環境づくりに取り組んでいく中で、八戸ブックセンターは主に大人を対象とし、市の直営による運営としますが、民間書店や図書館と適切な機能分担を図りながら、これまで手に触れる機会が少なかった本に出会える場の創出という、本に関する新たな公共サービスを提供することとしています。

方針1 本を「読む人」を増やす

(1) 本のまち読書会

【内容】

ブックセンターが主催する読書会で、様々なテーマ本などを設定するほか、時にゲストを招き開催。テーマ本への理解だけでなく、参加者間の本を通じた交流も深め、読んでいない本や新たなジャンルへの興味を喚起する機会となっている。

【実施状況】

- ・平成29年度は、計27回開催し、延べ123名が参加。
- ・平成29年10月には、山根基世氏（元NHKアナウンサー）をゲストに招き、「朗読の基本のキを学ぶ」というワークショップのほか、朗読会を開催。（約60名が参加）

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・参加することにより、いろいろな本を知ることができ、知っている本でも、より深く理解することができた。
 - ・「ジャケ読！」のように、普段あまり本を読まない人でも参加しやすい読書会が良かった。
- ※「ジャケ読！」⇒ブックセンター内の本から、気になるジャケット（表紙）の本を選び、紹介し合う読書会。



読書会（知の棚へのチチェローネ）
※チチェローネ→案内人のこと



読書会（かおりのことば〜香りを感じる読書会〜）



山根基世ワークショップ「朗読の基本のキを学ぶ」



山根基世朗読会

【30年度の取組】

- ・毎回、一定数の参加者があり、好評を得ていることから、今後も様々なテーマを設定し、月3～4回程度の頻度で、ブックセンター主催の読書会を開催する。
- ・平成30年12月15日（土）に、松平定知氏（元NHKアナウンサー）をゲストに招き、公民館文化ホールで朗読を通じた「本との出会い」をテーマとしたトークイベントを開催予定。

(2) ブック・ドリンクス

【内容】

お薦めの本を持ち寄るなど、ドリンクを飲みながら本について語り合う交流会。「本のまち読書会」と違い、テーマを設定せず予約申込も不要としており、気軽に参加してもらえことから、本好きが集う場所となっている。また、紹介したい本のコメントなどを作成して参加するなど、常連の参加者も増えてきている。

【実施状況】

- ・毎月最終金曜日の夕方に開催しており、平成29年度は、延べ72名が参加。
- ・平成29年10月には、書評家の豊崎由美氏をゲストに招き、豊崎氏お薦めの本を紹介してもらうブックドリンクススペシャル企画を実施。(約20名が参加)

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・決められたテーマがないため、自分が読まないジャンルの本に出会えた。
- ・参加している人の話を聞いているだけでも面白く、参加したことにより、本を読むようになった。
- ・豊崎さんの本の紹介がわかりやすく面白く、気になる1冊に出会えた。



ブックドリンクスの様子



ブックドリンクススペシャル
「フーテンのトヨさん」が八戸にやってくる！」

【30年度の取組】

- ・毎月最終金曜日の夕方に定期開催
- ・平成30年10月～11月頃に、書評家の豊崎由美氏を招き、スペシャル企画を実施予定。

(3) セレクト・ブックストア (本の陳列・販売)

市内民間書店では出会わない本（主に、海外文学や人文・社会科学、自然科学、芸術などの分野）を中心に、専門家向けではなく、一般の方も手に取りやすい内容の本を主として選書し、テーマ別の陳列を行っている。本への興味関心を高め、本との偶然の出会いを通し、広い世界や多様なジャンルへの知的好奇心や探究心の醸成に寄与するようなセレクト・ブックストアを目指している。

【29年度に取り上げたテーマ、フェア棚など】

- ・「シリーズ藩物語 八戸藩」出版にあわせ、関連本その他、パネル展示などで紹介
- ・三菱製紙八戸工場との連携による棚（三菱製紙の紙を使用した本の陳列販売）
- ・八戸にゆかりのある人などに選書してもらう「ひと棚」
- ・一般公募で自由なテーマにより選書してもらう「わたしの本棚」
- ・市内や県内の文化施設（美術館、博物館、フォーラム八戸など）やイベントとのコラボによる棚
- ・マイブুকクーポン事業との連携による棚（小学校全児童にブুকクーポンと一緒に配布している、おすすめ本リストに掲載している本の陳列、紹介など）

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・普段出会うことのない本に出会えた
- ・テーマによる陳列が面白い
- ・今まで興味がなかったジャンルにも興味が沸くことができた



「ひと棚」、「わたしの本棚」



三菱製紙八戸工場との連携棚



南郷名画座との連携棚



三戸町連携（II びきのねこ）

【30年度の取組】

- ・ブックセンターのコンセプトに則り、本との偶然の出会いを創出できるよう、選書・陳列を行う。
- ・市内外の美術館や博物館などの文化施設などと連携を図り、その施設・事業との相乗効果が得られるような選書・陳列を行う。

(4) 読書会ルームの活用

読書会ルームについては、市内の読書団体などへの貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業にも活用している。

【読書会ルーム利用状況】

期間	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12 ~ H29.3)	20 件	5.0 件	5 件	1.3 件
平成 29 年度 (H29.4 ~ H30.3)	50 件	4.2 件	78 件	6.5 件

【現在の活用状況】

- ・市内の読書団体へ読書会用に貸し出しているほか、朗読会など、発表の場としても活用。
- ・貸館、自主事業で利用していないときは、読書スペースとして開放している。



トークイベントでの利用時



読書スペースとしての利用時

【30年度の取組】

- ・今後も、読書団体などによる読書会の会場としてご利用いただくとともに、ブックセンター主催の企画事業（読書会、ワークショップ、トークイベントなど）の実施に活用していく。
- ・利用していない時間帯は、来館者の読書スペースとして開放。
- ・今後、見る機会が少ない出版社発行のPR誌や業界紙などを陳列し、それらも閲覧できるスペースとすることを予定。

方針2 本を「書く人」を増やす

(1) 執筆・出版ワークショップ

【内容】

小説や自分史の書き方、電子書籍の作り方など、執筆や出版に関するワークショップ。

執筆や出版についての知識を深めることを通し、また、同じ「書く」という志を持つ方々がワークショップを機会に集うことが刺激となり、本を書くきっかけづくりとなっている。

【実施状況】

講師を招き、下記内容で計4回開催し、延べ54名が参加。

- 出版する際の権利や法律に関する講義（講師：フリーライターの鷹野凌氏）
- 電子出版に関するワークショップ（講師：フリーライターの鷹野凌氏）
- 郷土史に関するワークショップ（トークイベント）（講師：歴史研究会の三浦忠司氏）
- 編集術に関するワークショップ（トークイベント）（講師：編集者の藤本智士氏）



法律などに関する講義



電子出版ワークショップ



郷土史ワークショップ



編集術ワークショップ

【30年度の取組】

- ・平成30年7月に、出版する際の権利や法律に関する講義を開催。
- ・平成30年7月に、電子出版ワークショップを開催。
- ・平成30年10月に、市内を歩きながら、郷土史の取材の仕方などに関するワークショップを開催予定。

(2) カンヅメブースの活用

カンヅメブースについては、本などを執筆したい人向けに貸出しており、利用するには、活動内容などを教えていただき、「市民作家登録」をしていただいている。

【市民作家登録者、カンヅメブース利用状況】

期間	市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12 ~ H29.3)	77 人	77 人	65 件	16.3 件
平成 29 年度 (H29.4 ~ H30.3)	66 人	143 人	174 件	14.5 件

【現在の活用状況】

- ・市民作家登録をするだけでなく、出版に向けた相談で来館されるケースも出てきている。
- ・カンヅメブースを利用して書いた本が出版されたケースも出てきている。
- ・市民が書いた本については、センター内で紹介（閲覧のみ）している。
- ・平成30年10月から開始予定のギャラリー企画の一環で、八戸の詩人「村次郎」の詩集が出版される予定で、改めて、村次郎という人物、村次郎が過ごした八戸の風土や詩への想いなどについて、詩人の管啓次郎氏がカンヅメブースを利用して執筆予定。



カンヅメブース



八戸市民が書いた本の紹介コーナー

方針3 本で「まち」を盛り上げる

(1) ギャラリー展示

【内容】

八戸ブックセンター主催、もしくは関係機関との共催による企画展示。

本や本にまつわる出来事の奥深さや面白さを多角的な視点から伝えることを通して、多様な人々の関心を喚起し、まちを盛り上げていく。

【実施状況】

期間	展示名	内容など
H28.12.4～H29.2.10	司修と三浦哲郎	<ul style="list-style-type: none"> 多くの三浦哲郎作品の装丁を手掛けた司修氏の原画などの展示。 ブックセンター開設記念として、三浦哲郎「野」の新たなカバーを作成、販売。
H29.2.12～H29.3.15	大人のための児童文学カフェ	<ul style="list-style-type: none"> 戸田山みどり氏（八戸高专教授）協力による、児童文学の展示。 戸田山氏によるアカデミックトークも実施。
H29.3.18～H29.4.9	香りの記憶 言葉の記憶	「香り」に関する本と、本に関連する「アロマ」の提供
H29.4.15～H29.6.30	飯田竜太展「のどの文字、間の無光」	<ul style="list-style-type: none"> 元八戸短期大学講師で彫刻家の飯田竜太氏の作品展示 読み終わった本や、捨てられる運命にあった本を素材にした彫刻作品など。 飯田氏のトークも実施。
H29.7.3～H29.7.23	雪は西からやって来る	<ul style="list-style-type: none"> 東出昌大氏（俳優）の、八戸市も舞台となった写真集や実際に使用した道具等の展示 写真家、デザイナーのトークも実施。
H29.7.24～H29.9.24	寺山修司 言葉の森	<ul style="list-style-type: none"> 寺山修司記念館と協力しての「言葉」をテーマとした展示。 記念館館長の佐々木英明氏、テラヤマワールド代表の笹目浩之氏のトークも実施。
H29.9.27～H29.11.26	暮らしの手帖をつくったふたり	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしの手帖社と協力しての「暮らしの手帖」に関する展示。 暮らしの手帖社の池上研治氏のトークも実施。
H29.12.3～H30.3.11	紙から本ができるまで展 (開設1周年記念)	<ul style="list-style-type: none"> 八戸出身作家・木村友祐氏の最新刊「幸福な水夫」ができあがるまでの過程の展示。 全ての用紙は三菱製紙八戸工場の紙を使用して出版、展示を実施。 木村氏、デザイナーの佐藤亜沙美氏、三菱製紙八戸工場の信田博司氏のトークも実施。
H30.3.14～H30.4.22	祖敷大輔『星空の谷川俊太郎質問箱』原画展	<ul style="list-style-type: none"> 「星空の谷川俊太郎質問箱」の装画、挿絵を担当した、祖敷大輔氏の原画展。 来館者参加型の「みんなの質問箱」も実施。

【30年度の取組】

① H30.5.3～7.8

牡丹靖佳氏（現代美術家）が作画を担当した絵本「ようこそロイドホテルへ」を入口にした、オランダの歴史と「色・デザイン・建築」の魅力を伝えるアート作品の展示。

② H30.7.14～9.17

cherry chill will 氏（八戸出身の写真家）の写真集刊行を記念した展示。写真集の展示のほか、関連グッズの販売、トークなどを実施。

【ギャラリー展示写真】



「司修と三浦哲郎」



飯田竜太展「のどの文字、間の無光」



「寺山修司 言葉の森」



「暮らしの手帖をつくったふたり」



八戸ブックセンター開設1周年記念「紙から本ができるまで展」

(2) パワープッシュ作家

【内容】

- ・特定の作家を「パワープッシュ作家」に選び、読書会などのテーマに取り上げるほか、市内書店とも連携したフェアなどを開催するもの。
- ・八戸に関係する本でパワープッシュを行ったことにより、市民が本に興味を持ってもらうきっかけづくりになっている。

【実施状況】

(1) 「月の満ち欠け」(著者：佐藤正午、第157回直木賞受賞作)

- ・登場人物が八戸出身という設定であり、随所に「八戸」が登場していること。また、八戸市出身の坂本政謙氏が編集担当者であったことから、パワープッシュを実施。
- ・フェア棚、坂本氏の「ひと棚」を設置し、読書会も開催。

(2) シリーズ藩物語「八戸藩」(著者：本田伸)

- ・フェア棚を設置し、読書会も開催。
- ・著者の本田伸氏をゲストに迎え、トークイベントを開催。(南部会館を会場にし、約100名が参加)
- ・ブックセンターから出版社に相談し、市内書店の仕入希望冊数をブックセンターで取りまとめ、仕入運搬をすることにより、販売日を揃え、一斉に販売促進を図った。また、購入者に対してトークイベントのチケットを渡すなど、市内書店と連携を図って実施。

【参加者の声（「八戸藩」トークイベントアンケートから一部抜粋）】

- ・自分が生まれ育ったまちの歴史を知るきっかけとなった。
- ・講演だけでなく、パネルディスカッションもあり、興味深いテーマがとりあげられ、参考となった。



「月の満ち欠け」フェア棚



「八戸藩」トークイベント

【30年度の取組】

- ・平成30年5月の八戸市読書団体連合会創立50周年記念式典において、「月の満ち欠け」編集担当者の坂本政謙氏をゲストに、講演が実施され、翌日にブックセンターにおいてもトークイベントを実施。
- ・平成30年7月に、青森県史全36巻完成記念としてのトークイベントを実施。
ゲスト：中野渡一耕氏（県職員）、工藤竹久氏（県文化財保護審議会委員）、相馬英生氏（弘前大学国史研究会員）、宮本利行氏（八戸東高校教諭）、三浦忠司氏（コーディネーター）
- ・八戸にゆかりのある作家、八戸に関連する本などについて、読書会やトークイベントなどで取り上げていく。

(3) 本のまち八戸ブックフェス（一箱古本市）

【内容】

- ・年に一度の行事として、様々な団体と連携し、一箱古本市やトークイベントなど、本に関する様々な企画を、一定期間集中的に開催する。
- ・ブックセンターが開館するまでは、「はっちの一箱古本市」としてイベントを実施していたが、平成29年度からは、ブックセンターも一緒になりイベントを実施している。
- ・古本市には、毎回一定数の出店申込があり、出店者とお客さんとの交流が図られている
- ・ホコテンの日に、同日開催とすることにより、多くの方が本に触れるきっかけづくりとなっている。

【実施状況】

・9月末のホコテン開催日に、ブックセンターとはっちを主会場に実施。

- ①一般応募型による一箱古本市（19店舗）
- ②「いか文庫」のトークイベント ※「いか文庫」→店舗を持たず本を楽しむ活動をしている団体
- ③絵本作家の広瀬克也氏によるトークイベント、ワークショップ
- ④絵本展、絵本読み聞かせ会
- ⑤絵本作家の林明子氏の原画展
- ⑥88ストーリーズの展示

※88ストーリーズ→八戸の歴史や文化などを市民記者が取材しまとめた物語（八戸ポータルミュージアム実施事業）



一箱古本市（会場：はっち）



トークイベント（会場：ブックセンター）



絵本ワークショップ（会場：はっち）



絵本展（会場：はっち）

【30年度の取組】

- ・9月30日（日）のホコテン開催日に、マチニワ・はっち・ブックセンターを会場に実施。
- ・一箱古本市のほか、トークイベント、絵本展、ワークショップなどを予定。
- ・市内の本のまち八戸事業関係課（図書館、教育指導課、子育て支援課、八戸ポータルミュージアム）のほか、市内書店などとも連携したイベントを実施予定。

(4) 市内書店との連携（市内書店個性化プロジェクト）

【内容】

- ・市内書店と情報交換の場を設け、その書店の個性や立地上の特性、スタッフの関心領域などに合わせた、個性ある棚づくりをサポートする。

【実施状況】

- ・市内書店との情報交換会を実施。（29年度中5回開催）
 - ①内沼晋太郎氏（ブックセンターディレクター）の活動内容の紹介、棚（店）づくりの意見交換。
 - ②各店舗の棚（店）の写真を活用した情報交換。
 - ③田口幹人氏（さわや書店盛岡フェザン店長）を招いてのトーク、情報交換。

【その他の連携状況】

- ・八戸に関係する本（下記）が出版された際に、市内書店の必要部数をブックセンターがとりまとめ、出版社への一括発注をし、先行販売を実施。
 - ①「幸福な水夫」（著者は八戸出身の木村友祐氏で、ギャラリー企画で出版された作品）
 - ②シリーズ藩物語「八戸藩」（著者は八戸出身の本田伸氏。出版記念トークイベントも実施）※「八戸藩」については、トークイベントチケットを市内書店に渡し、本の購入者へ配付。
- ・「月の満ち欠け」（八戸が舞台の小説で、パワープッシュした作品）が直木賞を受賞した際、出版社から情報収集し注文書を手配、市内書店必要分を優先的に確保できるよう調整。
- ・市内書店のフェア情報などをブックセンターに提供してもらい、ブックセンターのホームページ等からも情報発信。



市内書店との情報交換会

【30年度の取組】

- ・平成30年9月開催の「本のまち八戸ブックフェス」において、下記事業を実施予定
 - ①自店の特徴を紹介する、市内書店の販売ブースをマチニワに設置。
 - ②市内書店の書店員をゲストに、自店のこれまでの取り組みなどを紹介するなど、トークを実施。
 - ③辻山良雄氏（東京荻窪の本屋 Title 店主）をゲストに、市内書店の書店員限定のトークを実施。
- ・伊藤清彦氏（元書店員、一関図書館副館長）をゲストに、市内書店の書店員、図書館職員を対象とした、トーク（情報交換）を実施予定。（平成31年1月頃）
- ・八戸関連の書籍が出版された際などを中心に、出版社からの情報を市内書店に提供。
- ・市内書店のフェア情報などを、ブックセンターのホームページ等から発信。

(5) ブックサテライト増殖プロジェクト（フリーペーパーの発行）

【内容】

- ・市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置し、市内全域に拡がるさまざまな本棚スポットをめぐる楽しさを創出する。
- ・「ブックサテライト」のほか、本のまち八戸について紹介するフリーペーパー「ほんのわ」を発行。

【実施状況】

- ・ブックサテライトとして、下記の施設が参加している。
 - ①ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店
 - ②スターバックスコーヒー八戸田向店
 - ③スターバックスコーヒー八戸城下店
 - ④八戸市水産科学館マリエント
 - ⑤八戸市博物館
 - ⑥はちのへまちなかアートラボ Co 部屋



ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店



スターバックス八戸城下店



八戸水産科学館マリエント



はちのへまちなかアートラボ Co 部屋

【30年度の取組】

- ・引き続き、市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、ブックサテライトを増殖させる。
- ・今年度内に増えた施設の情報も含めたフリーペーパーを発行する。

(参考データ① 平成29年度 八戸ブックセンター決算額)

【歳入】

単位：千円

科 目		金 額	
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分）	490
	国庫支出金	社会資本整備総合交付金	2,000
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	770
	繰入金	地域振興基金繰入金	21,000
	諸収入	書籍等売上収入	11,176
その他雑入（社会保険料等）		1,597	
一般財源（税等）		53,927	
歳入合計		90,960	

【歳出】

(A) 選書、企画事業の実施に係るもの

単位：千円

科 目		金 額
人件費	職員3名、嘱託職員3名、臨時職員1名分	36,306
報償費	自主事業謝礼	1,562
旅費	自主事業等旅費	998
役務費	通信運搬費等	659
委託料	事業ディレクション業務等	6,618
歳出合計		46,143

*人件費には職員人件費含む

(B) 本の販売等に係るもの

科 目		金 額
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	23,382
	（うち書籍仕入分）	12,357
	（うち販売返品業務等分）	11,025
歳出合計		23,382

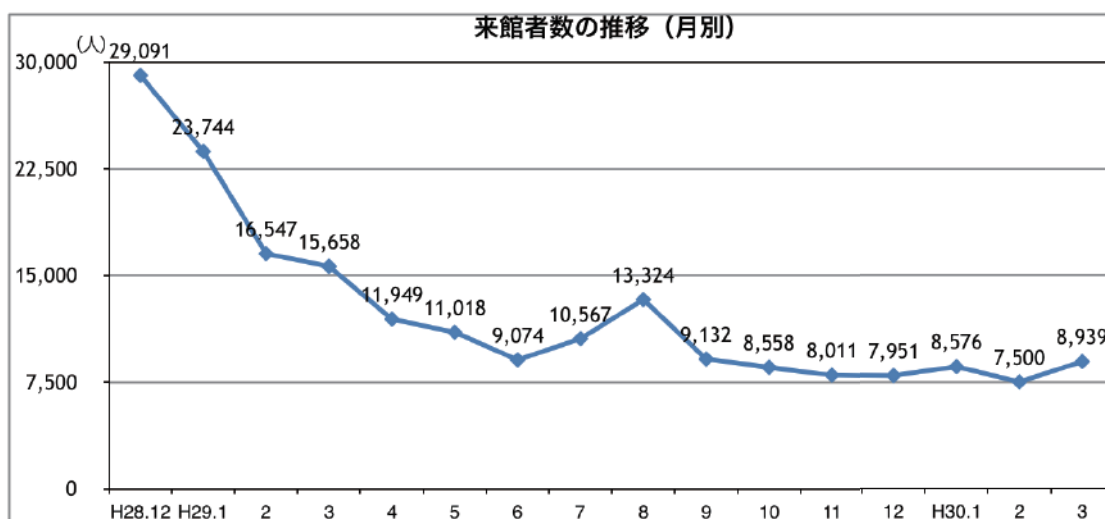
(C) 建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの

科 目		金 額
需用費	消耗品費	665
	食糧費	15
	印刷製本費	169
	光熱水費	1,131
	修繕料	24
	小 計	2,004
役務費	手数料	8
	火災保険料	65
	小 計	73
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,080
	その他（ホームページ運用保守業務等）	513
	小 計	2,593
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,344
	その他（複写機使用料等）	1,265
	小 計	16,609
備品購入費	庁用備品等購入費	156
歳出合計		21,435

歳出合計 (A) + (B) + (C)	90,960
----------------------	--------

*上記内容は職員人件費を含むため、「平成29年度決算報告書」とは異なる。

(参考データ②：来館者数の推移)



●来館者数

累計	月平均	1日平均
199,639人	12,477人	487人

※平成28年12月4日（開設）～平成30年3月31日

(参考データ③：販売冊数、販売額の推移)



●販売冊数

累計	月平均	1日平均
12,287冊	768冊	30冊

●販売金額

累計 (書籍)	累計 (雑貨)	計
18,242,350円	836,444円	19,078,794円
販売金額 (累計)	月平均	1日平均
19,078,794円	1,192,425円	46,534円

※平成28年12月4日（開設）～平成30年3月31日

(参考データ④：視察受入状況)

【機関別】

区分		件数	人数
議会関係者	市町村議会議員	15	90
	都道府県議会議員	2	23
	国会議員	2	24
行政関係者	市町村職員	15	200
	都道府県職員	3	24
	国職員	10	47
教育機関関係者	小学校	2	38
	高等学校	2	22
	大学	3	4
出版編集等関係者	出版社	14	55
	編集者	3	3
	製紙会社	7	35
	その他	6	43
その他（商工会関係、個人等）		21	178
合計		105	786

【月別】

	件数	人数
平成29年4月	12	91
平成29年5月	14	26
平成29年6月	7	73
平成29年7月	12	119
平成29年8月	10	61
平成29年9月	8	101
平成29年10月	12	97
平成29年11月	9	56
平成29年12月	5	54
平成30年1月	2	5
平成30年2月	7	77
平成30年3月	7	26
合計	105	786

(参考データ⑤：アンケート集計結果)

- (1) 実施期間 平成29年1月2日(月)～平成30年3月31日(土)
(2) 実施場所 八戸ブックセンター内
(3) 回答件数 425件
(4) 結果内容

Q1 年齢

19歳以下	52	12.2%
20代	47	11.1%
30代	74	17.4%
40代	80	18.8%
50代	84	19.8%
60代以上	85	20.0%
未記入	3	0.7%
合計	425	100.0%

Q2 ブックセンターへお越しいただいたのは何回目ですか？

初めて	295	69.4%
2～3回目	82	19.3%
4回目以上	48	11.3%
合計	425	100.0%

Q3 どちらからお越しですか？

市内	195	45.9%
市外	230	54.1%
合計	425	100.0%

【市外】 県内(67)、北海道(8)、東北(45)、中部(2)、関東(65)、中国(2)、近畿(12)、九州(2)、不明(25)

Q4 八戸にお越しの目的は？(市外からの来館)

ビジネス	1	8.3%
観光	6	50.0%
帰省	1	8.3%
ブックセンター	1	8.3%
その他	3	25.0%
合計	12	100.0%

※平成30年4月から新たに追加した設問項目。

Q 5 来館にあわせ、他に立ち寄る場所はありますか？

はっち	11	34.3%
図書館	1	3.1%
小売店（百貨店、コンビニ等）	7	21.9%
飲食店	6	18.8%
映画・娯楽施設	1	3.1%
その他	3	9.4%
立ち寄り場所なし	2	6.3%
未記入	1	3.1%
合計	32	100.0%

※平成30年4月から新たに追加した設問項目。

Q 6 ブックセンターの雰囲気はいかがですか？

非常に良い	257	60.4%
良い	123	28.9%
普通	30	7.1%
悪い	8	1.9%
とても悪い	2	0.5%
未記入	5	1.2%
合計	425	100.0%

Q7 市内書店ではあまり並んでいない本を選定していますが、内容はいかがですか？

非常に良い	203	47.8%
良い	140	32.9%
普通	54	12.7%
悪い	8	1.9%
とても悪い	4	0.9%
未記入	16	3.8%
合計	425	100.0%

【感想・意見（肯定的）】

- ・ 普段出会わない本が多いので良い。（同様意見 他126件）
- ・ 特定の作家、ジャンル、本の陳列希望 （38件）
- ・ テーマに沿った選書が普通と違い面白い。（同様意見 他25件）
- ・ 様々な分野の専門的な本も並べてほしい。（同様意見 他8件）
- ・ 書店に並ぶことの少ないコミックなども並べてほしい。（同様意見 他3件）
- ・ 新刊本などの売れ筋も並べて良いと思う。（同様意見 他4件）
- ・ 洋書の冊数を増やしてほしい。（同様意見 他2件）
- ・ 写真集が充実していて良い。（同様意見 他1件）
- ・ 興味を持ちやすい洋書が良い。
- ・ 児童書の良書ももう少し並べてほしい。
- ・ 学生向けの専門分野に関する本も並べてほしい。
- ・ 高価本が多く、購入しやすい安価の本も増やしてほしい。
- ・ 季節を感じるような本、棚があれば良い。
- ・ 日本文学の本を増やして欲しい。
- ・ 音楽分野の本を増やして欲しい。

【感想・意見（否定的）】

- ・ 一般の人が欲しい本が少なく、リピーターが少なくなってしまうのでは。（同様意見 他4件）
- ・ 興味がある分野の本があまりなかった。（同様意見 他1件）
- ・ 固いイメージの本が多い感じがする。

Q 8 市内書店や図書館とは違い、設定した「テーマ」に沿った陳列をしています。内容はいかがですか？

非常に良い	197	46.4%
良い	145	34.1%
普通	38	8.9%
悪い	14	3.3%
とても悪い	5	1.2%
未記入	26	6.1%
合計	425	100.0%

【感想・意見（肯定的）】

- ・テーマごとの検索が面白い。（同様意見 他51件）
- ・今まで興味のなかったジャンルにも興味が湧くことができている。（同様意見 他26件）
- ・読みたい本を探しやすい。（同様意見 他25件）
- ・ひと棚、わたしの本棚の企画が良い。（同様意見 他7件）
- ・次の新しいテーマに替わるのが楽しみ。（同様意見 他5件）
- ・陳列棚の配置がデザイン的にも良い。（同様意見 他2件）
- ・八戸市民が書いた本のコーナーが良い。

【感想・意見（否定的）】

- ・特定の本を探しにくい。（同様意見 他12件）
- ・テーマがわかりにくい。（同様意見 他9件）
- ・テーマの表示が目立たない。（同様意見 他7件） ⇒ テーマ見出し改良検討中
- ・もっと深いテーマ設定を望む。（同様意見 他4件）
- ・本の高さがバラバラなことや詰め込みすぎを見直したほうが良い。（同様意見 他1件）
- ・テーマが細分化し過ぎている感がある。
- ・横断的な内容の本についてのテーマ決めが難しいと思う。

Q 9 今後もブックセンターに来たいと感じましたか？

ぜひ来たい	266	62.7%
機会があれば来たい	125	29.5%
あまり来たいと思わない	14	3.3%
来ない	7	1.7%
未記入	12	2.8%
合計	424	100.0%

Q10 今後、ブックセンターにどのようなことを望みますか？

- ・本の冊数を増やしてほしい。（同様意見 他30件）
- ・読書会や企画事業、特色ある展示などを開催してほしい。（同様意見 他24件）
- ・読書席、ドリンクが飲めるスペース、テーブルなどがもう少し欲しい。（同様意見 他15件）
- ・本の「読み方」や「ポップアップ」のようなものがあったら良いと思う。（同様意見 他5件）
- ・青森県内の様々なことに関するコーナーがあれば良い。（同様意見 他4件）
- ・陳列のテーマを増やして欲しい。（同様意見 他4件）
- ・クレジットカードが使えるようにしてほしい。（同様意見 他4件） ⇒ 平成30年度導入予定
- ・本の水先案内的な機能が充実すればより良くなると思う。（同様意見 他2件）
- ・ブックセンターとしての主張などをもっと取り入れた方が良いと思う。（同様意見 他2件）
- ・本を読むためのメガネやひざ掛けなどの雑貨も置いてほしい。（同様意見 他1件）
- ・地域内の多様な層に合わせたコラボがあれば良い。（同様意見 他1件）
- ・映画館と連携したフェアなども検討してほしい。 ⇒ 実施済み
- ・他の書店、古本屋などの案内MAPがあれば良い。 ⇒ 実施済み（フリーペーパー）
- ・「わたしの本棚」が極力品切れ状態にならないようにしてほしい。
- ・市民作家登録者で交流できるイベントを開催してほしい。（同様意見 他1件）
- ・様々な文化情報の発信をしてほしい。（同様意見 他1件）
- ・中高生などが気軽に来れる雰囲気をつくっててもらえれば良い。
- ・電源やfree-wifiが使えると良い。
- ・長時間読書が出来る貸しスペース（ベッドなど）があれば良い。
- ・地元のワインを提供して欲しい。

Q11 その他、ご意見等ございましたらこちらにお書きください。

- ・長期継続して欲しい。（同様意見 他62件）
- ・施設の雰囲気など、居心地がよかった。（同様意見 他31件）
- ・施設の広さが足りない。（同様意見 他16件）
- ・子どもが気軽に来れて、子ども向けの本も並べてほしい。（同様意見 他18件）
- ・場所によっては、本が取りづらい。（一番下、高所の棚、ハンモック）（同様意見 他14件）
⇒ 一部（読書会ルーム周り）の棚を調整
- ・書架の間など、通路をもっと広い方が良い。（同様意見 他9件）
- ・ドリンクの値段が高い。（同様意見 他8件） ⇒ 一部値下げを実施済み
- ・ドリンクの種類を増やしてほしい。（同様意見 他8件） ⇒一部（ごぼう茶）実施済み
- ・ドリンクを飲みながら本を見られるのが良い。（同様意見 他7件）
- ・コーヒーがおいしかった。（同様意見 他4件）
- ・情報発信をもっとした方が良くと思う。（同様意見 他4件）
- ・施設内容などの表示が欲しい。（同様意見 他4件） ⇒実施済み
- ・外からブックセンターの場所などがわかりやすいようにした方が良く。（同様意見 他5件）
⇒ 外看板（2箇所）設置予定
- ・開館時間を早める、閉館時間を遅くする方が良く。（同様意見 他4件）
⇒ 平成30年1月から開館時間を早め、10時オープンに変更。
- ・混雑していて、ゆっくり本が見れなかった。（同様意見 他3件）
- ・センター内が暗い。もう少し明るくしてほしい。（同様意見 他3件）
- ・カンヅメブースに電気スタンドを設置してほしい。 ⇒ 設置済み
- ・センターの紹介、企画事業の周知などPRをもっとした方が良く。（同様意見 他3件）
- ・スタッフの接客対応が良かった。（同様意見 他2件）
- ・ロッカーなどの荷物を置く場所があれば良い。（同様意見 他2件）
- ・子どもが騒いでいるのが気になった。静かな雰囲気をつくってほしい。（同様意見 他1件）
- ・アルコールに合う食べ物もあれば良い。（同様意見 他1件）
- ・ロゴマークを活用した、グッズの販売をしてほしい。 ⇒実施済み
- ・個性的で、テーマに沿った読書席が良い。
- ・ジャズ以外の季節に合わせたバックミュージックもあれば良いと思う。
- ・勉強できるスペースがほしい。（学生）
- ・郷土の雑貨（こぎん刺しのブックカバーなど）も置いてほしい。
- ・ロゴマークをもっと活用した方が良くと思う。
- ・ブックセンターをきっかけに読書習慣が根付くことを期待する。
- ・図書館などの学習スペースと連携できれば文化度が高まると思う。
- ・隣の花屋、地域のお店（ドリンク）とのコラボなどがあっても良い。
- ・陳列している書籍の一覧のようなものがあると良い。
- ・時計があると良い。
- ・センター内が寒い。
- ・カンヅメブースの利用（予約）方法を簡素化してほしい。
- ・人目を気にせず本が読めるスペースがあれば良い。
- ・本が汚れていた。陳列本と分けた方が良く。
- ・書店なのか図書館なのかコンセプトがわからない。
- ・カンヅメブースに飲み物を持ち込みさせてほしい。
- ・想像以上につまらなかった。
- ・本のことをよく知らない人には、わかりにくさだけが残る。
- ・本や本屋が好きな人の立場になって選書、陳列方法を勉強してほしい。
- ・車でのアクセス（駐車場）を良くして欲しい。